

建築物の脱炭素化に向けた取組

～ZEB（ゼブ：Net Zero Energy Building）と地中熱利用の事例～
及びグリーンイノベーション基金の動向について

2021年7月30日

国立研究開発法人 新エネルギー・産業技術総合開発機構

省エネルギー部長 吉岡 恒

第6次エネルギー基本計画の議論

2050年カーボンニュートラルと2030年の46%削減に向けてエネルギー需給見直しを見直す

2030年におけるエネルギー需給の見通しのポイント①		※数値は全て暫定値であり、今後変動し得る。	
<ul style="list-style-type: none"> 今回の見通しは、2030年度の新たな削減目標を踏まえ、徹底した省エネルギーや非化石エネルギーの拡大を進める上での需給両面における<u>様々な課題の克服を野心的に想定した場合に、どのようなエネルギー需給の見通しとなるかを示すもの。</u> 今回の野心的な見通しに向けた施策の実施に当たっては、<u>安定供給に支障が出ることのないよう、施策の強度、実施のタイミングなどは十分考慮する必要。</u>（例えば、非化石電源が十分に導入される前の段階で、直ちに化石電源の抑制策を講じることになれば、電力の安定供給に支障が生じかねない。） 			
		(2019年 ⇒ 現行目標)	2030年ミックス (野心的な見通し)
省エネ		(1,655万kl ⇒ 5,030万kl)	約6,200万kl (省エネ前の最終消費：約35,000万kl)
電源構成 発電電力量： 10,650億kWh ⇒ 約9,300~9,400 億kWh程度	再エネ	(18% ⇒ 22~24%)	36~38%
	水素・アンモニア	(0% ⇒ 0%)	1%
	原子力	(6% ⇒ 20~22%)	20~22%
	LNG	(37% ⇒ 27%)	20%
	石炭	(32% ⇒ 26%)	19%
	石油等	(7% ⇒ 3%)	2%
(+ 非エネルギー起源ガス・吸収源		上記と同等の引上げ)	
温室効果ガス削減割合		(14% ⇒ 26%)	46% 更に50%の高みを目指す

出典：令和3年7月21日 総合資源エネルギー調査会 基本政策分科会（第46回会合）
資料1「エネルギー基本計画（素案）の概要」12ページ（経済産業省webサイト）

第6次エネルギー基本計画の議論（省エネについて）

2030年に向けた政策対応のポイント【基本方針】

- エネルギー政策の要諦は、安全性を前提とした上で、エネルギーの安定供給を第一とし、経済効率性の向上による低コストでのエネルギー供給を実現し、同時に、環境への適合を図るS+3Eの実現のため、最大限の取組を行うこと。

2030年に向けた政策対応のポイント【需要サイドの取組】

- 徹底した省エネの更なる追求
 - 産業部門では、エネルギー消費原単位の改善を促すベンチマーク指標や目標値の見直し、「省エネ技術戦略」の改定による省エネ技術開発・導入支援の強化などに取り組む。
 - 業務・家庭部門では、2030年の新築平均ZEH・ZEB目標と整合的な、建築物省エネ法の規制措置強化、建材・機器トップランナーの見直しなどに取り組む。
 - 運輸部門では、電動車・インフラの導入拡大、電池等の電動車関連技術・サプライチェーンの強化、荷主・輸送事業者が連携した貨物輸送全体の最適化に向け、AI・IoTなどの新技術の導入支援などに取り組む。

（以下略）

出典：令和3年7月21日 総合資源エネルギー調査会 基本政策分科会（第46回会合）
資料1「エネルギー基本計画（素案）の概要」6ページより抜粋（経済産業省webサイト）

ZEB (ゼブ) = Net Zero Energy Building (ネット・ゼロ・エネルギー・ビル)

建物で消費する年間の一次エネルギーの収支を、省エネと創エネでゼロにすることを目指した建物のこと。

【4段階全てを広義のZEBと呼ぶ】

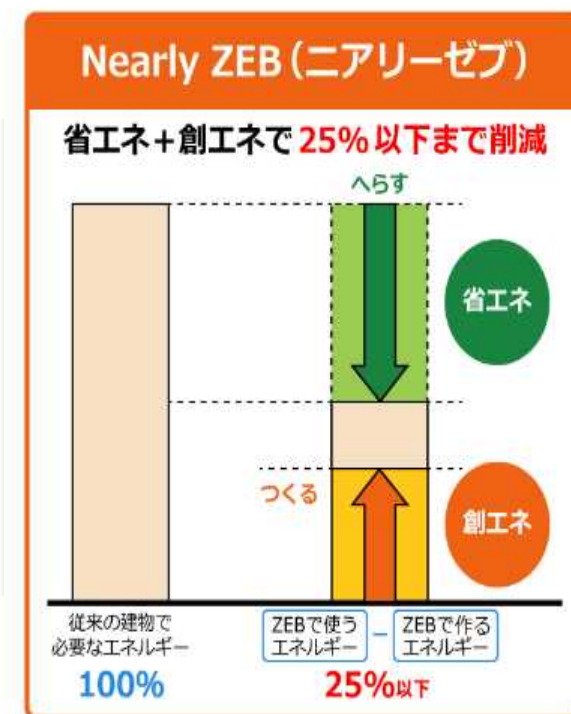
名 称			基準値からの削減率	
			創エネ除く	創エネ含む
『ZEB』				100% 以上
Nearly ZEB			50% 以上 かつ	75%~100% 未満
ZEB Ready				50%~75% 未満
ZEB Oriented	建物 用途	事務所等、学校等、工場等	40% 以上	—
		ホテル等、病院等、百貨店等、飲食店等、集会所等	30% 以上	—

(環境協創イニシアティブ (SII)パンフより抜粋)

※Nearly ZEB以上は創エネマスト

ZEBの政策目標：

2030年までに新築建築物の平均でZEBを実現することを目指す。



(環境省WEBサイトより)

Nearly ZEB事例 (株)宝輪 津営業所

ZEB30L-00001-P

出典：環境共創イニシアティブ (SII)
「ZEBリーディング・オーナー」紹介サイトより

ZEBリーディング・オーナー 導入実績 ②

オーナー名	株式会社宝輪
建築物の名称	宝輪津営業所



建築物のコンセプト	都道府県
省エネかつ快適なオフィス環境の実現に向け、BEMSによりエネルギー収支の見える化を行い、ビル状況を把握・評価してエネルギー削減活動を継続的に実施。高効率な空調、照明、給湯設備の導入に加え、空調制御の集中化とBEMS連携により更なる省エネ化を図ります。太陽光発電設備による創エネを実施。従業員の快適性にも配慮する健康的なオフィス環境を実現します。	三重県
	延べ面積

省エネ 53% (断熱、LED、HP、BEMS、
創エネ 24% (太陽光発電)
合計 77% の一次エネルギー削減 > 75%
三重県初の Nearly ZEB

HOWA津中央ビル・津営業所ZEB化完了

出典：株式会社宝輪ホームページより

ZEBランク
Nearly ZEB

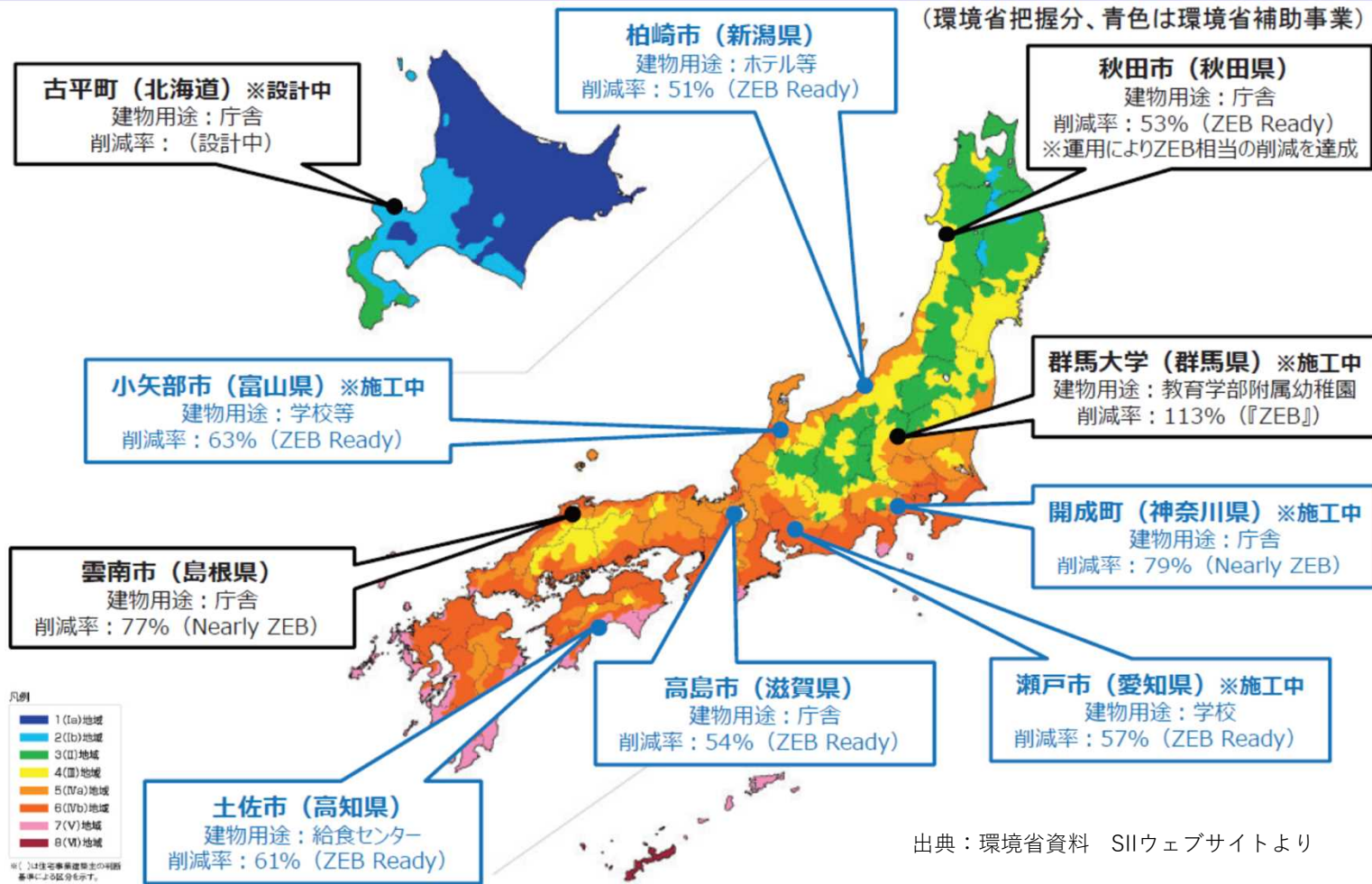
技術	設備	仕様
外皮断熱	外壁	グラスウール断熱材/ポリスチレンフォーム断熱材
	屋根	ウレタンフォーム断熱材
	窓	
	遮蔽・遮熱	
その他		
設備	熱源	ビルマル (EHP)

技術	設備	仕様
設備省エネルギー技術 (アクティブ)	照明	機器 L システム 甲
	給湯	機器 ヒ システム
	昇降機	
	効率化	コージェネ 再エネ

平成31年12月、HOWAビル津中央、宝輪津営業所の2棟のZEB化が完了しました

太陽光発電 (15kW)	コージェネ
--------------	-------

地方公共団体施設 ZEB事例



出典：環境省資料 SIIウェブサイトより

補助金制度・支援制度

環境省 (複数制度有り)
 公共施設、民間建築物
 補助率 1/3~2/3
 金額 ~MAX 5 億円

経済産業省
 民間の大規模建築物
 補助率 2/3
 金額 ~MAX10億円
 (5億円×複数年)

環境省 **ゼブ・ポータル**
 補助制度一覧のページ

ZEB PORTAL



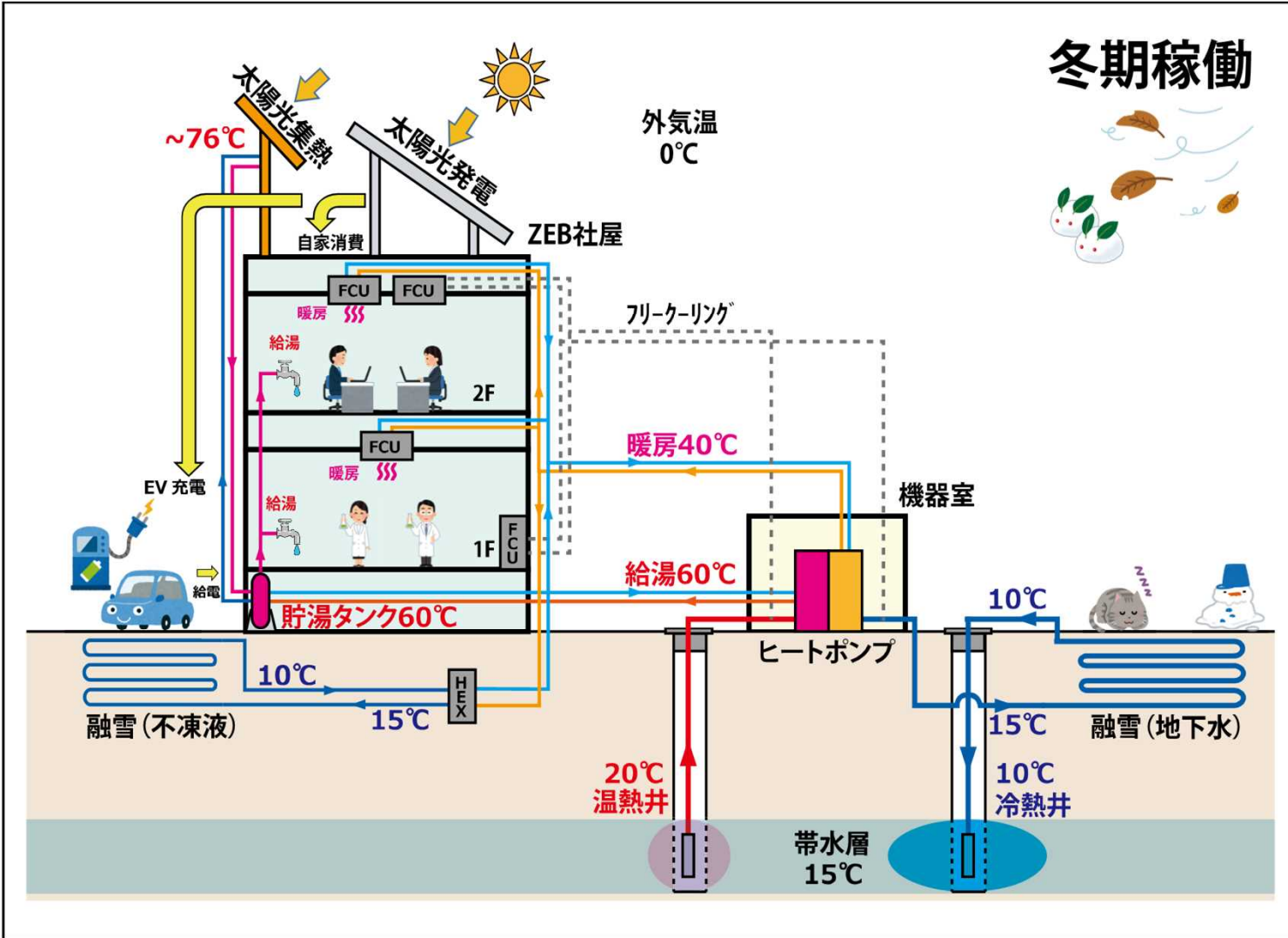
<http://www.env.go.jp/earth/zeb/hojo/index.htm>6

NEDO R&Dの事例 ①

地下水熱エネルギーの有効活用により、建物のエネルギー収支ゼロ (ZEB)を目指す

2021/7/6 NEDOニュースリリース

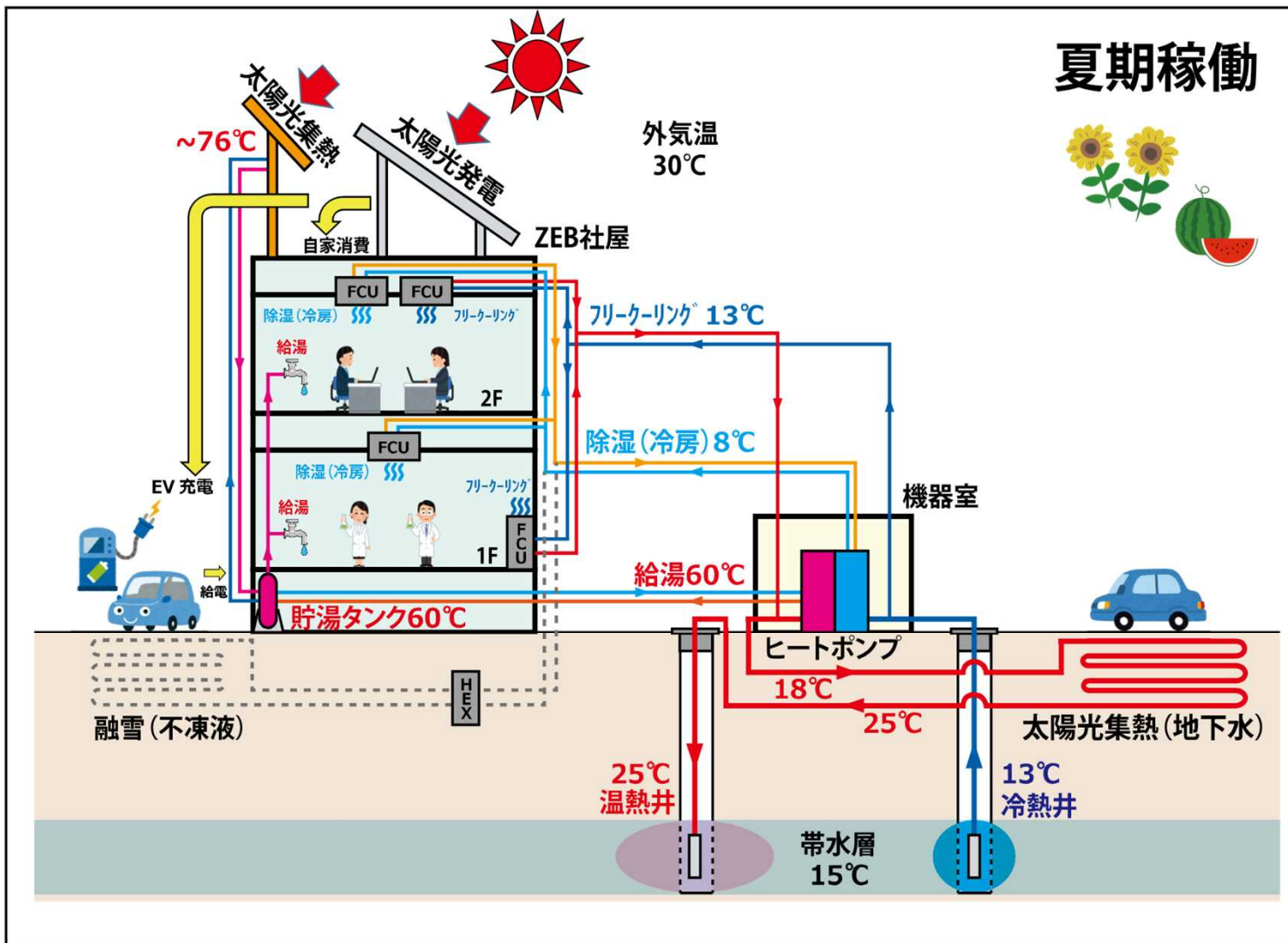
冬期稼働



山形市におけるNEDO実証事業

(実施者: 日本地下水開発(株))

- 冷暖房 + 給湯に対応可能な専用ヒートポンプの開発
- 太陽熱利用による給湯の高効率化
- 冬期は夏期に蓄熱した温熱による暖房 + 給湯 + 無散水消雪、3種類の熱需要に対応



■夏期は冬期に蓄熱した冷熱によるフリークーリングでヒートポンプス冷房

使っている省エネ・創エネ技術

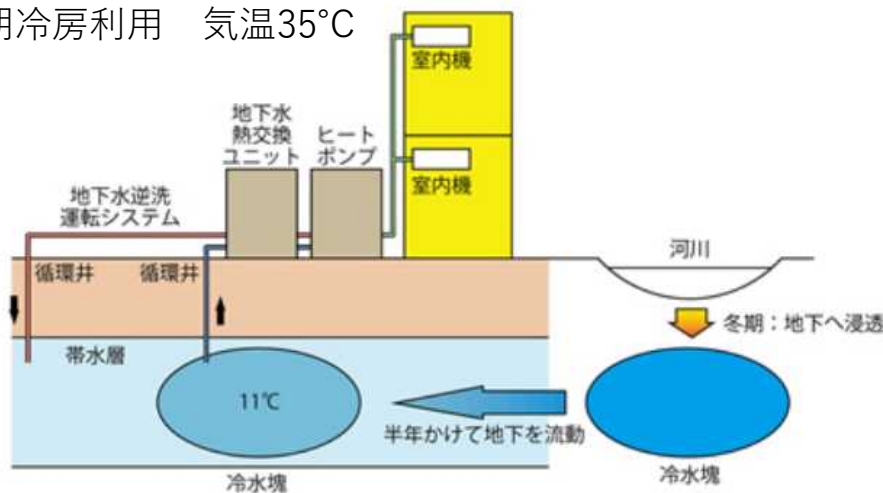
外皮断熱 (外壁、屋上、2階天井)
窓 (アルミ断熱サッシ、Low-E複層ガラス)
換気装置 (全熱交換器システム)
外部ブラインド
照明 (LED)
給湯・冷暖房・無散水消雪 (高効率帯水層蓄熱を活用したトータル熱供給システム)
真空管式太陽熱温水器
太陽光発電パネル

NEDO R&Dの事例②

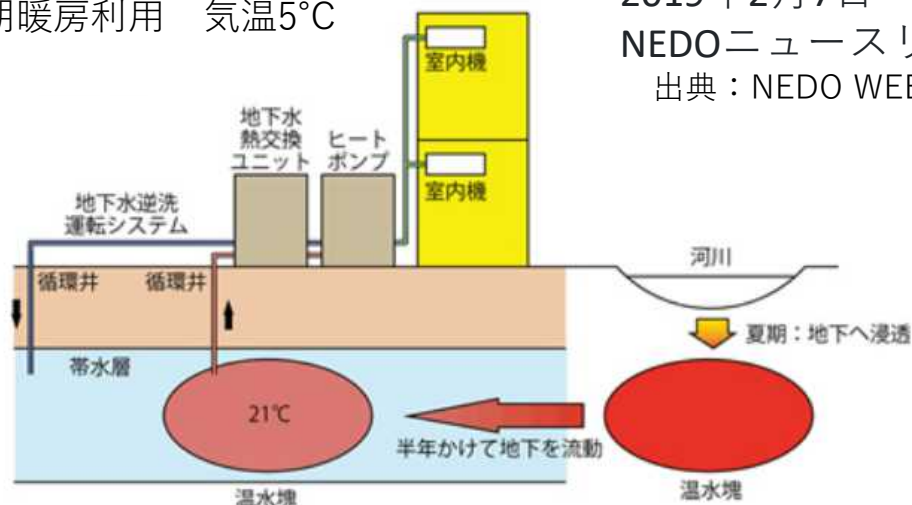
長良川扇状地で地下水を活用した地中熱利用空調システムの実証 —既設の空調システムと比較して運用コスト73%削減を確認—

長良川扇状地での地下水特性利用イメージ

夏期冷房利用 気温35°C



冬期暖房利用 気温5°C



2019年2月7日

NEDOニュースリリース

出典：NEDO WEBサイト

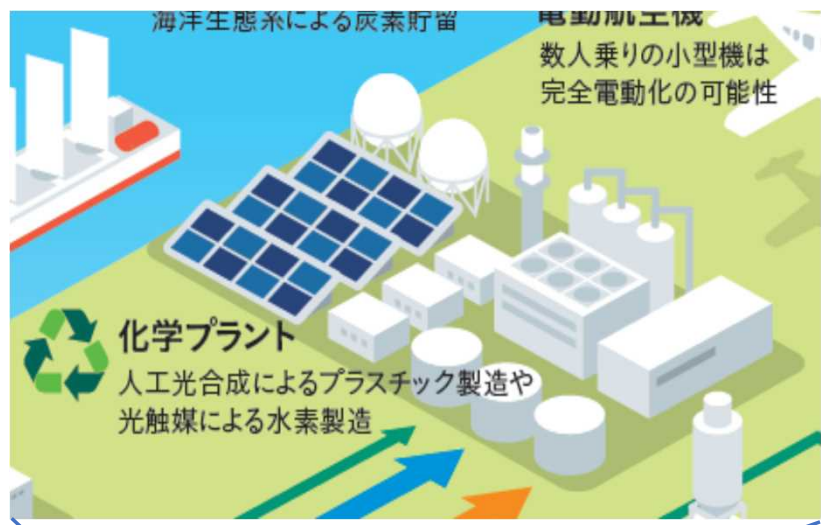


図1 岐阜市内の公民館建屋に導入したオープンループ型地中熱利用空調システム

(委託先) 国立大学法人岐阜大学、東邦地水株式会社 (※)
株式会社テイコク

※東邦地水(株)は四日市市の企業で地中熱利用システムを全国展開。
三重県総合博物館の地中熱利用システム(冷暖房)も施工。

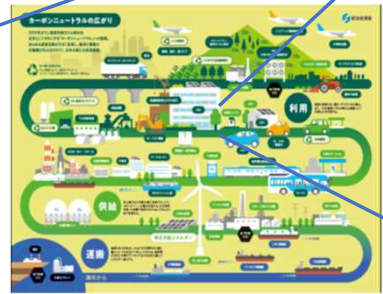
脱炭素イノベーションを経済成長へとつなげる NEDOの2兆円のグリーンイノベーション基金



「2050年カーボンニュートラル」に向け、

- 研究開発から実証、社会実装まで最大10年間の支援
- 参加企業は経営課題として取り組むコミットメント
- 従来規模（200億円/PJ）以上のプロジェクト

カーボンニュートラルの産業イメージ カーボンニュートラルの広がり



2021年度上半期に開始を想定しているプロジェクト一覧

2兆円の約3割をプロジェクトの追加・拡充用に留保

- ① **洋上風力発電の低コスト化**：
浮体式洋上風力発電の低コスト化等に向けた要素技術（風車部品、浮体、ケーブル等）を開発し、一体設計・運用を実証。
- ② **次世代型太陽電池の開発**：
ペロブスカイトをはじめとした、壁面等に設置可能な次世代型太陽電池の低コスト化等に向けた開発・実証。
- ③ **大規模水素サプライチェーンの構築**：
水素の供給能力拡大・低コスト化に向けた製造・輸送・貯蔵・発電等に関わる技術を開発・実証。
- ④ **再エネ等由来の電力を活用した水電解による水素製造**：水素を製造する水電解装置の低コスト化等に向けた開発・実証。
- ⑤ **製鉄プロセスにおける水素活用**：石炭ではなく水素によって鉄を製造する技術（水素還元製鉄技術）の開発・実証。
- ⑥ **燃料アンモニアサプライチェーンの構築**：
アンモニアの供給能力拡大・低コスト化に向けた製造・輸送・貯蔵・発電等に関わる技術を開発・実証。
- ⑦ **CO₂等を用いたプラスチック原料製造技術開発**：CO₂や廃プラスチック、廃ゴム等からプラスチック原料を製造する技術を開発。
- ⑧ **CO₂等を用いた燃料製造技術開発**：自動車燃料・ジェット燃料・家庭・工業用ガス等向けの燃料をCO₂等を用いて製造する技術を開発。
- ⑨ **CO₂を用いたコンクリート等製造技術開発**：CO₂を吸収して製造されるコンクリートの低コスト化・耐久性向上等に向けた開発。
- ⑩ **CO₂の分離・回収等技術開発**：CO₂の排出規模・濃度に合わせ、CO₂を分離・回収する様々な技術方式を比較検討しつつ開発。
- ⑪ **廃棄物処理のCO₂削減技術開発**：焼却施設からCO₂を回収しやすくするための燃焼制御技術等の開発。
- ⑫ **次世代蓄電池・次世代モータの開発**：
電気自動車やドローン、農業機械等に必要蓄電池やモーターの部素材・生産プロセス・リサイクル技術等を開発。
- ⑬ **自動車電動化に伴うサプライチェーン変革技術の開発・実証**：
軽自動車・商用車の電動化、サプライヤの事業転換等に向けた開発・実証。
- ⑭ **スマートモビリティ社会の構築**：旅客・物流における電動車の利用促進に向けた自動走行・デジタル技術等の開発・実証。
- ⑮ **次世代デジタルインフラの構築**：データセンターやパワー半導体の省エネ化等に向けた技術を開発。
- ⑯ **次世代航空機の開発**：水素航空機・航空機電動化に必要なエンジン・燃料タンク・燃料供給システム等の要素技術を開発。
- ⑰ **次世代船舶の開発**：水素燃料船・アンモニア燃料船等に必要なエンジン・燃料タンク・燃料供給システム等の要素技術を開発。
- ⑱ **食料・農林水産業のCO₂削減・吸収技術の開発**：農林水産部門において市場性が見込まれるCO₂削減・吸収技術を開発。

WG1
グリーン電力の
普及促進分野

WG2
エネルギー
構造転換分野

WG3
産業
構造転換分野

電気はすべて脱炭素化し、産業部門の電化を進める。

水素は、発電・産業・運輸など幅広く活用されるキーテクノロジー。

CO₂は回収し、カーボンリサイクルや地中貯留（CCS）へ。

あらゆる産業活動が大きく変革し、経済と環境の好循環を生み出す。

省エネ部が主管となる事業

経済産業省 第3回 産業構造審議会 グリーンイノベーションプロジェクト部会 (R3.4.6) 資料より

省エネは第4のエネルギー源

N E D O では2021年度より、

「脱炭素社会実現に向けた省エネルギー技術の研究開発・社会実装促進プログラム」

も開始（研究開発助成事業）。

民間事業者等による省エネルギー技術開発を支援しています。

国立研究開発法人 新エネルギー・産業技術総合開発機構



資料 3



環対協

四日市地域環境対策協議会の取り組みについて

令和3年7月30日（金）

環対協会長会社（J S R^(株)四日市工場）

松田 裕樹

1. 環対協の成⽴ち
2. 令和3年度 環対協会員
3. 四日市コンビナートマップ
4. 環対協の目的及び活動
5. 環対協の組織（役員会社）
6. 環対協の年間行事
7. 環対協の研修会・見学会
8. 環対協におけるその他活動
9. 行政活動への参画事例
10. 今後の活動について

【 1. 環対協の成立ち 】



団体名 : 四日市地域環境対策協議会（通称：環対協）

設立年月日 : 1964年（昭和39年）

現加盟会社 : 四日市コンビナート企業 25社

【設立経緯】

四日市地区の公害を防止し環境保全を推進する事を目的に設立され、当初は四日市コンビナート地区に立地していた石油精製業、無機・有機化学製品製造業、電気業等に属する、主要企業十数社が自発的に集まり、設立されました。その後、加入企業の統廃合、新たに立地した企業の加入等の変遷をたどり、現在の会員数は25社となっています。

【 2. 令和3年度 環対協会員 】

< 令和3年4月現在 *名簿順 >



石原産業（株）四日市工場

昭和四日市石油（株）四日市製油所

江南化工（株）本社・四日市工場

第一工業製薬（株）四日市工場

日本板硝子（株）四日市事業所

三菱ケミカル（株）三重事業所

四日市合成（株）

日本アエロジル（株）四日市工場

三菱マテリアル（株）四日市工場

味の素（株）東海事業所

J S R（株）四日市工場

パナソニック（株）四日市事業所

東ソー（株）四日市事業所

丸善石油化学（株）四日市工場

日本ポリプロ（株）四日市工場

三菱ガス化学（株）四日市工場

（株）J S P 四日市第一工場

ライオン・スペシャリティ・ケミカルズ（株）四日市工場

東邦化学工業（株）四日市工場

上野製薬（株）四日市工場

霞共同事業（株）

K Hネオケム（株）四日市工場

コスモ石油（株）四日市製油所

D I C（株）四日市工場

（株）J E R A 四日市火力発電所

計 25社

【 3. 四日市コンビナートマップ 】



【 4. 環対協の目的及び活動 】



【目的】

協議会は、会員の連帯性に基づき、**四日市地域における環境の保全と事業活動の健全な発展**に資することを目的とする。

【活動】

- ① **環境保全**及びその対策に関する事項
- ② 協議会の活動に必要な**調査研究**に関する事項
- ③ **関係官公庁との連絡**に関する事項
- ④ **会員相互の連帯協調**に関する事項
- ⑤ その他目的達成に必要な事項

【会員及び役員】

- ① 協議会の会員は、**四日市地域に所在する企業**で協議会の趣旨及び会則に賛同し、承認を得た事業所とする。
- ② 役員の任期は、1年（歴任）とする。

【 5. 環対協の組織（役員会社） 】



会長 : 協議会を代表し、会務を統括する。

(排ガス量4万Nm³/h以上及び排水量1万m³/日以上 of 事業所から選出)

副会長 : 会長の補佐及び会長の代行、並びに協議会の会計業務を担当

(排ガス量4万Nm³/h以上又は排水量1万m³/日以上 of 事業所から選出)

大気部会長 : 大気に関する情報収集及び部会運営等にあたる

(Nox又はSox総量規制対象工場の事業所から選出)

水質部会長 : 水質に関する情報収集及び部会運営等にあたる

(COD・T-N・T-P総量規制対象工場の事業所から選出)

産廃部会長 : 産廃に関する情報収集及び部会運営等にあたる

(産廃・特管処理計画書提出事業所から選出)

特別部会長 : 会の運営において臨時に設置される部会

(現在「四日市コンビナート先進化検討会」の対応で昨年度より運営中)

【 6. 環対協の年間行事 】



平成31年度 環対協活動計画表

年月	役員会		総会・定例会等		活動テーマ	備考(行事等)
	日時	会場	日時	会場		
平成31年1月 (2019年)	1月10日(木) 14時00分～	東ソー	1月18日(金) 15時30分～	都ホテル四日市 *味の素	・総会:令和3年度活動計画・予算審議他 ・行政講演「 大気汚染常時監視結果 」三重県四日市地域防災総合事務所環境室	・新旧役員による合同役員会
2月	2月7日(木) 14時00分～	味の素	—	—	—	・官庁に役員交代挨拶(2月上旬)
3月	3月7日(木) 14時00分～	JSR	3月14日(木) 14時00分～	健康増進センター *JSR	・行政講演「 改正土壌汚染土対法について 」三重県環境生活部	—
4月	4月4日(木) 14時00分～	三菱ケミカル	—	—	—	・官庁人事異動に伴う役員挨拶(4月上旬)
5月	4月25日(木) 14時00分～	四日市合成	5月9日(木) 14時00分～	健康増進センター *三菱ケミカル	・行政講演「 脱炭素経営について 」三重県環境生活部	・ 研修会:5月16日(木)～17日(金)
6月	6月6日(木) 14時00分～	三菱マテリアル	—	—	—	・環境月間:6月1日(火)～6月30日(水)
7月	7月4日(木) 14時00分～	味の素	7月11日(木) 14時00分～	健康増進センター *四日市合成	・行政講演「 四日市市環境計画について 」四日市市環境部	—
8月	8月1日(木) 14時00分～	JSR	—	—	—	—
9月	9月5日(木) 14時00分～	三菱ケミカル	9月12日(木) 14時00分～	健康増進センター *三菱マテリアル	・行政講演「 産廃の適正な処理の推進に関する条例 」三重県環境生活部	—
10月	10月3日(木) 14時00分～	四日市合成	—	—	—	・次年度会長・副会長の役員会への参加
11月	11月7日(木) 14時00分～	三菱マテリアル	11月14日(木) 13時00分～	車中にて定例会 *味の素	—	・ 見学会 ・意見交換会 ・次年度会長・副会長の役員会への参加
12月	12月5日(木) 15時00分～	味の素	—	—	—	・新旧役員引継会
2020年1月	1月9日(木) 14時00分～	JSR	1月17日(金) 15時30分～	都ホテル四日市 *石原産業	・総会:令和4年度活動計画・予算審議他 ・行政講演「 海岸漂着物対策の現状と、今後の取組について 」三重県環境生活部	・新旧役員による合同役員会
	* : 会場担当会社		* : 議事録担当会社			

1. 役員企業による役員会を毎月開催、情報共有化

2. 定例会(2ヶ月毎)を実施、加盟会社へ情報提供

3. 行政(三重県、四日市市)講演会開催(2ヶ月毎)

4. 研修会、見学会を開催、環境知識向上、修学を実施

※令和元年から、新型コロナウイルス対応のため活動を縮小中。例として平成31年度の活動実績を提示しています。

【 7. 環対協の研修会・見学会 】



年度	年	研修会(5月)	見学会(11月)
		研修先	
平成24年度	2012年	岡山県久米郡美咲町 エコシステム山陽㈱	愛知県名古屋市 アサヒビール名古屋工場
平成25年度	2013年	宮城県南三陸町 震災復興学習プログラム	三重県松阪市 松阪木質バイオマス熱利用協同組合
平成26年度	2014年	静岡県御殿場市 キリンディスティラリー富士御殿場蒸留所	愛知県清須市 キリンビール㈱名古屋工場
平成27年度	2015年	富山県立富山市 富山県立イタイイタイ病資料館	三重県四日市市 四日市公害と環境未来館
平成28年度	2016年	大阪ガス ガス科学館 大阪府大阪市 造幣局	愛知県知多郡武豊町 ファイザー・ファーマ㈱名古屋工場
平成29年度	2017年	人と防災未来センター 姫路城	四日市市 日永浄化センター 四日市市 クリーンセンター
平成30年度	2018年	花王株式会社 高野山 参拝	名古屋市港区 リサイクルテック・ジャパン㈱
平成31年度	2019年	カゴメ野菜ファーム 山梨県立リニア見学センター	京都市南部クリーンセンター ヤンマーミュージアム
令和2年	2020年	新型コロナウイルスのため中止	三重県四日市市 国際環境技術移転センター(ICETT)



富山県立イタイイタイ病資料館での集合写真

✓ 環境への取組み（環境負荷低減、植林活動、公害、防災等）について、各研修先にて修学を実施

✓ 会員の活動に必要な知識の向上、及び会員相互の連帯協調を図るため研修会・見学会を開催

【 8. 環対協におけるその他活動 】



- ◎ 環境法令改正の都度、三重県及び四日市市による法改正説明会や勉強会の開催
- ◎ 四日市市との公害防止協定に係る意見交換会や勉強会を進め、各社締結を推進
- ◎ 平成25年 環対協50周年を迎え、様々な記念行事を実行
- ◎ 平成28年 四日市市の臭気指数規制導入に向け、四日市市との間で活発な意見交換、勉強会を重ね、着実な導入に寄与
- ◎ 定期的に三重県及び四日市市との間で、各社環境保全における課題や疑問等をテーマとして対話形式の集合勉強会を開催、相互のレベルアップを実施

【三重県】

- **伊勢湾の総量排水規制に関する部会**
⇒ 水濁法に基づき、水質改善を図る部会
- **三重県地球温暖化対策実行計画推進委員会**
⇒ 県民、事業者、大学等で構成する温暖化対策委員会
- **三重県自動車交通公害対策推進協議会**
⇒ 自動車交通公害防止対策の推進を図る協議会
- **三重県海岸漂着物対策推進協議会**
⇒ NPO、漁業組合、森林組合、企業、市町村で構成された協議会



【四日市市】

- **四日市公害と環境未来館協議会**
⇒ 学識経験者、公害患者と家族関係者、環境活動団体からなる協議会
- **四日市コンビナート先進化検討会**
⇒ 環境問題について、企業の枠を超えた革新的な技術を結集し検討する会



【 10. 今後の活動について 】



今後も現在の活動を継続しつつ、行政（三重県・四日市市）との連携をより一層密にした情報交換、意見交換を進め、環境保全と健全な事業活動の発展に努めて参ります。

また近年は世界的にも環境への意識が高まり、各企業においてもSDGsの考えに注目した活動へとシフトしてきています。

環対協においても、SDGs・脱炭素社会に向けた世界の動向や国内技術の情報をいち早くキャッチし、行政と協力し合いながら、目標達成に繋げていく考えです。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS





ご清聴ありがとうございました

ECOALF × 志摩市 クリーンアップイベント



in 志摩市 次郎六郎海岸

令和2年11月26日(木) 午前10時~11時

参加者

- ・株式会社 三陽商会(エコアルフジャパン) 下川様
- ・社会活動家・環境活動家 竹中様
- ・阪急百貨店 阪急うめだ本店(眞本様、他2名)
- ・志摩市 SDGs未来都市推進室・総合政策課
- ・志摩市 海洋プラスチックごみ問題関係部署
(ごみ対策課、環境課、水産課、学校教育課、観光課)
- ・太平洋・島サミット市民会議

【取材】NHK 野島 様

目次

1. 開会式の様子
2. 清掃活動の様子
3. 閉会式～集合写真
4. 事務の記録1
5. 事務の記録2

1. 開会式の様子



開会式 全体



司会進行



ECOALF 下川様あいさつ



ECOALF 下川様あいさつ



社会活動家・環境活動家 竹中様あいさつ



社会活動家・環境活動家 竹中様あいさつ



澤村政策推進部長あいさつ



作業内容の説明

2. 清掃活動の様子



漂着した養殖筏のバールの清掃



漂着ごみの清掃



漂着ごみの清掃



漂着ごみの清掃



漂着ごみの清掃



漂着した漁具の清掃



回収したバールや浮き、漁網など



回収したごみの分別作業

3. 閉会式～集合写真



閉会式 全体



社会活動家・環境活動家 竹中様あいさつ



ECOALF 下川様あいさつ



加藤室長 閉会のあいさつ



三重県より事業紹介



集合写真1



集合写真2



集合写真3

4. 事務の記録 1



看板1 県道沿い(左折)



看板2 アクアフォレスト入り口(右折)



看板3 ゲート横(直進)



受付レイアウト



パネル展示



幟1



幟2



ゲスト椅子(上手) 司会は下手

5. 事務の記録2



解散の様子



駐車場の様子1



駐車場の様子2

ECOALF × 志摩市

第2回 クリーンアップ活動 実施報告



開催場所： 志摩市 浜島町 黒崎海岸

令和3年3月23日（火） 午前11時～12時

参加者

- ・太平洋・島サミット市民会議 会員および顧問 43名
- ・三重県大気・水環境課 3名
- ・地域おこし協力隊 1名
- ・志摩市 海洋プラスチックごみ問題関係部署
(ごみ対策課、環境課、水産課、学校教育課、観光課)
- ・志摩市 SDGs 未来都市推進室/太平洋・島サミット推進総括チーム 3名
- ・志摩市政策推進部 部長、参事

【取材】 松阪ケーブルテレビ (キックスマッシュ21)

1. 当日の様子



2. 清掃活動の様子



3. 閉会～集合写真



4. 事務の記録



看板借用
(建設整備課)



パネル借用 (三重県大気・水環境課)



取材：松阪ケーブルテレビ



ごみ回収
(ごみ対策課 2トンドンプ2台)

5. 事務の記録



清掃後



清掃活動前

6 事務の記録



回収ペットボトル



活用予定分



使用不可分



使用不可分のうち
状態の悪いもの



浮きとして使用
されていたと推測

保管の様子
(旧神明児童館敷地内倉庫)



ECOALF × 志摩市

第3回

クリーンアップ活動 実施報告書



実施場所 志摩市阿児町安乗 浦ノ浜
令和3年6月1日(火) 9:30~10:30

志摩市 SDGs 未来都市推進室 主催

参加者

太平洋・島サミット市民会議(会員)	42人
太平洋・島サミット市民会議(顧問)	9人
安乗自治会、漁協安乗事業所、女性の会、あのり有志会 等	39人
三重県 大気・水環境課	1人
計	91人

志摩市

政策推進部長、SDGs 未来都市推進室	4人
海洋プラスチックごみ問題関係部署 (ごみ対策課、環境課、水産課、学校教育課、観光課)	14人
国体推進室	3人
建設整備課	4人
計	25人

報道関係

3社

(株)キックスマッシュ 21	1人
三重テレビ	3人
建通新聞	1人

回収したごみ

- 可燃ごみ(ボール、ビン玉、流木・葉・枝、漁網 等) …… 2,160 kg
- 不燃ごみ(カン、ビン 等) ● ペットボトル



当日の様子

開始前



受付の様子



開 会



クリーンアップ活動





閉会



取材の様子



 **海と日本** PROJECT in **三重県**

海と日本プロジェクト in 三重県 2021 「みえの海やに！」#3

放送日時:令和3年6月16日 17:35~17:40 (三重テレビ放送)

集合写真



海岸の状況(活動前・活動後)

《活動前》



《活動後》





事務の記録

《案内看板》





《受付》



《駐車場》



三重大学ESD-SDGsクラブ

顧問：朴恵淑先生（三重大学特命副学長）

代表：小西凌（三重大学地域イノベーション学研究科博士前期課程2年）

■ 目的

「三重大学ESD-SDGsクラブ」は、在学生と留学生と共に、ESD-SDGsの達成を目指した活動として、三重県の自治体との連携によるSDGs講演会や展示会を通じた普及啓発活動、地元企業のSDGs経営講演会、伊勢湾の環境保全活動、国際学会での研究発表および国際交流活動を通じた世界の若者とのコミュニケーションおよび協働活動を通じて、ローカルとグローバルをつなぐ、グローバル活動を積極的に行っています。



2020年度 活動実績 (一部)

2020.4.1

三重大学環境報告書2020に活動掲載

2020.9.10

中部電力と朴 恵淑顧問との協同事業, 意見交換会実施

2020.9.14

令和2年度 第1回三重県サステナビリティ委員会出席

2020.10.15

第12回 地域イノベーション学研究所国際ワークショップにおいて、
最優秀論文賞、優秀論文賞、受賞

2020.11.29

毎日新聞 (「三重大学 ESD SDGs クラブ」) 記事掲載

2020.12.17

「ミッションゼロ2050みえ推進チーム」キックオフ出席

2021.2.5

城田政幸川越町長とのエネルギーと持続可能なまちづくり座談会

行政機関との
連携

研究成果の
発表

民間企業との
協同

活動の周知



2021年度 活動計画

- 5月 第12回台湾フィリピン日本国際会議で発表
- 6月 みえグローバル学生大使交流会参加
- 7月 **第9回太平洋・島サミットにて配信された三重県PR動画に出演**
三重大学SDGs座談会にて活動報告
- 8月 SDGsアイデアコンテスト授賞式出席
- 9月 ミッションゼロ2050みえ推進チーム
- 10月 三重県サステナビリティ委員会
- 11月 **COP26**

